

【優秀賞】愛媛マンダリンパイレーツ賞

「男女の平等」 愛媛県立松山西中等教育学校 2年 正岡咲耶

「人権」という言葉を聞いてあなたはどんなことを思い浮かべますか。私が最初にイメージしたのは、自分の夢や目標に向かって一生懸命になれる権利です。人権という言葉の意味を辞書で調べてみると「人が生まれながらに持っている生命、自由、平等などに関する権利」と書かれていました。人権は様々な種類に分けられます。日本国憲法における基本的人権では大きく分けて三つ、平等権、自由権、社会権というものがあります。私が最初に思い浮かべていた人権というものは、自分はこうなりたいと思う自由とその夢を叶えるための教育を受ける権利といったもので成り立っていることが分かります。たくさんの種類がある中で、私は男女の平等という権利に関心を持ちました。

私は小学校四年生のときに松山市小学校総合体育大会すもうの部に出場しました。私が何か新しいことをしたいと始めたことで、周りの家族や友人はすごく応援してくれていました。一方であまり良く思わない人もいて、

「女の子が相撲をやるもんじゃない。」

と言われたこともありました。確かに同学年で女子は一人もいなかったし、練習に参加していたのは圧倒的に女子より男子の人数の方が多かったです。ですが私はその言葉に、なぜ女性は相撲をしない方が良いのか、男性と女性で何の差が

あるのかと不思議に感じていました。

二〇一八年に京都府で開催された「大相撲舞鶴場所」において土俵上で挨拶を行っていた市長が突然意識を失い、転倒したということがありました。関係者が適切な処置を行うことができていなかったため、観客であり過去に医療関係の仕事をしていた女性が土俵に上がって人命救助をしていると

「女性の方は土俵から降りてください。男性がお上がりください。」

と放送があったそうです。私はこのことを知って、人の命を助けることの方が優先だと思うのにここでも男女で違いが出てくることに疑問を感じました。女性で相撲をする人が少ないこと、大相撲で土俵に上がってはいけない理由はなぜかと思い、調べてみました。明治時代になると、西洋諸国との交流が増えてきました。女性が戦う姿は野蛮であると欧米人に思われてはいけないと禁止したり男尊女卑の考えが強くなったりしたからなど様々な説があります。しかし、伝統的な文化だからといって女性が命を助けようと土俵に上がった行動を悪く言うのは違いますし、とても悲しい出来事だったと思います。

私は相撲をやめようか迷いましたが、ある人の固定観念によって自分のやりたいことをやめるのはすごく嫌でした。それより練習を頑張って結果を残したいという気持ちの方が大きかったです。練習は先輩方に付き合ってもらい自分より強い相手と戦うことで日々自信がついていることを実感しました。大会当

日、たくさんの学校がきていて、四年生女子の部に出場する選手もたくさんいました。応援してくれている家族や先生、先輩方いろんな人の事を想って一生懸命戦いました。そして個人戦では三十二人中三位、団体戦では十九校中二位という結果を収めることができました。練習を一緒に頑張った仲間とすごく喜び合ったのを今でもよく覚えています。来年も絶対続けようと思っていましたが、新型コロナウイルスの影響で五、六年生と大会がなくなりました。だから一度きりの本当に良い経験で最高の思い出になったと思います。

自分が何をしたいのか、どうなりたいかを決めるのは自分で「男だから、女だから」という言葉で自分の夢や目標を諦めることはすごく残念だし、後になって絶対に後悔が残ります。自分の人生で自分が自由に決めてそれに向かって一生懸命になれたこのありがたさを感じてこれからも様々なことに挑戦していきたいです。

現代の社会では共働きをする夫婦が増えています。私の両親も共働きです。同じ立場なのに女性の方が家事をすることが多いのはなぜかという問題が挙がっています。それは、「男は仕事、女は家事」といった考えがまだ残っているからです。共働きの家庭が増えるにつれ、家事の分担で偏りを出さないことも今後の課題だと言われています。それを解決するためにはお互いが協力して、昔からある考えを少しずつ変えていかなければならないと思います。時代が変化する中

で男女の平等という権利を知る人が増える世の中になってほしいです。